

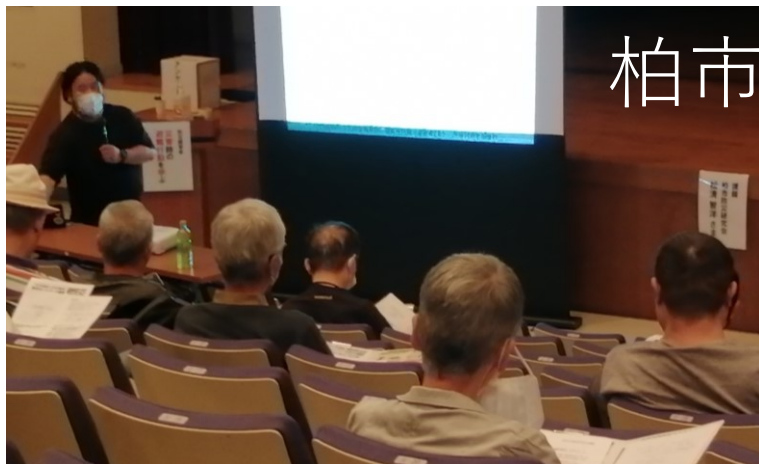
令和5年度（2023年度） 防災講習会 「災害避難行動を学ぶ」

2023年6月24日実施

柏市風早北部地域ふるさと協議会

防犯防災部

協力：柏市防災研究会



実施日時：

令和5年6月24日(土)

午前10時から12時15分

会場：沼南近隣センター

「ひまわりプラザ」大ホール

受講者：市内各地の防災役員や

一般市民の皆さん計45名

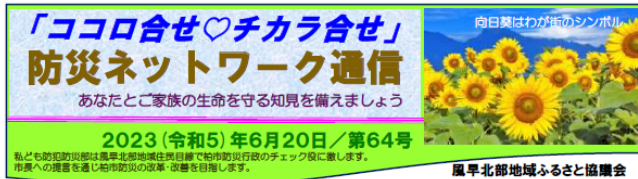
令和5年度地域防災講習会

災害避難行動を学びましょう

☆ 次 第 ☆

- ❖ 午前10時開会
- ❖ 第一部：風早北部地域での過去の防災訓練を振り返る
「説明：古山防犯防災部長」
- ❖ 第二部：災害避難行動学
「講師：防災研究会 松清智洋さま」
- ❖ 質疑応答
- ❖ 閉会（12時15分）

第一部災害時に 大怪我をしない取組み



大きな地震発生時に取るべき行動 One ワン・Two トゥー・Three スリー

柏市は12年前の東日本大震災（柏市の被災は、死者1名、建物全壊1棟・半壊5棟、断水20戸、火災発生ゼロ：震度5強）以降に大きな揺れはほぼなく、地震発生後の適切な行動につき市民間で十分に共有されていない状態になっています。大きな地震（5強以上を想定）が発生した際、基本動作として大切な3つの行動を以下に紹介します。各家庭で同居家族の中で話し合いをして情報を共有しましょう。

ワン！：大きな揺れを感じたら 自分の身体の安全確保が何よりです

まずは自分の身の安全確保に努めましょう。大きな家具・家電品・食器棚などの転倒、内容物の散乱を防ぐ、割れたガラス破片での怪我を防ぐ、頭上(天井)からの落下物に注意することに徹し、安全な場所に留まりましょう。②次のシェイクアウト参照。火の元確認は二次です。とっさにガスコンロの火を消しに行く（火災発生を防ぐ）ことに考えが進みがちですが、震度5強以上の揺れが続いた際、ガスコンロまでたどり着くことすら難しくなります。かえって怪我をしてしまうリスクがあるので、火の元点検は揺れが収まってからにしましょう。揺れが収まったら、火の元やガスの元栓を点検し、屋外避難の際は電気ブレーカーを遮断し、玄関や窓からの避難路を確保に向かいましょう。不在時の防犯対策として家の戸締りも確実にしておきましょう。

トゥー！：住民世帯個々での 「シェイクアウト訓練」をお願いします

柏市では市民一斉参加型の防災訓練が未だ行われていません。転じて、柏市より規模の大きな千葉市、船橋市、更には、柏市周辺の野田市、流山市、鎌ヶ谷市、印西市では、市民一斉のシェイクアウト訓練が行政主導により実施されています。

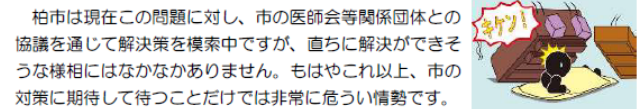
市がこれらの自治体のように動いてくれない理由は「その準備に手間がかかる」以外は定かではありませんが、一方で、当風早北部地域内の一部団体では数年前から、住民への呼び掛けて任意にて同訓練が行われています。



シェイクアウトは、大規模地震発生時に自分の身を守ることを主目的とした訓練ですので、是非、各家庭で模擬訓練として実施してみましょう。やり方は至って簡単です。詳しい実施方法はインターネット検索で、動画を含め容易に確認・学習が可能です。

スリー！：発災時に大怪我をしない行動を 当地域から災害時に医師や看護師がいなくなる？

第63号でも触れましたが、当風早北部地域を含む旧沼南町には総合病院がありません。大規模災害発生時の救急指定病院となる大規模病院に市内の医師や看護師が極力招集されるルールになっていますので、最悪の場合、当地域から医師や看護師が一人もいなくなる事態に直面します。怪我をしても治療ができない、平時には助かる命が助からなくなるのです。ご存知でしたか？



柏市は現在この問題に対し、市の医師会等関係団体との協議を通じて解決策を模索中ですが、直ちに解決ができそうな様相にはなかなかありません。もはやこれ以上、市の対策に期待して待つことだけでは非常に危うい情勢です。私もふるさと協議会では、災害時市民が大怪我をしないことに防災の舵を切るべきと考え、発災直後には怪我をしない行動をとることが何より重要と訴えます。28年前の阪神淡路大震災[※]では、犠牲になった住民の多くが逃げ遅れでの家屋の下敷きや、その後発生した火災による焼死でした。まずは、屋内にある大きな家具や家財の転倒で下敷きにならない、逃げ場を失わないよう、普段からその準備を行っておきましょう。多少お金がかかっても、家具・家財をしっかり固定することで、大切な生命が確実に守られます。本件で当会から柏市長に対しては、家具転倒防止に関する補助金支給の拡充（現行の社会福祉事業からの転換）、市民が真摯に家具・家財転倒防止行為に取り組める環境や学習機会の創設を強く求めており、本件への市の前向きな対応を期待しています。

※阪神淡路大震災を契機に体験された住民の志を本ホームページで紹介中。コチラからご覧ください。
当会ホームページURL: <https://kazakita.org>
上記URLから当会ホームページにアクセスし、「防災・防災」のアイコンをクリック・タップ、長押し画面の「防災関係の住民向け情報ほか」より「阪神淡路大震災体験記（貴重なお話をいただきました）」をクリック・タップし体験記事の閲覧が可能です。

スリー！：発災時に大怪我をしない行動を 当地域から災害時に医師や看護師がいなくなる？

第63号でも触れましたが、当風早北部地域を含む旧沼南町には総合病院がありません。大規模災害発生時の救急指定病院となる大規模病院に市内の医師や看護師が極力招集されるルールになっていますので、最悪の場合、当地域から医師や看護師が一人もいなくなる事態に直面します。怪我をしても治療ができない、平時には助かる命が助からなくなるのです。ご存知でしたか？



安否確認(訓練)の本格的実施のススメ

1. 目的

地震発生後に家屋に閉じ込められるなどして動けない住民をいち早く救助する、助けを求めている住民を発見するための地域や隣家住民による活動です。

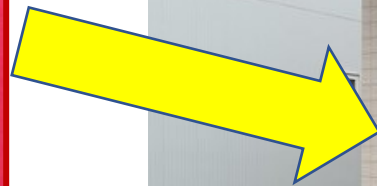
2. 発災後の具体的行動〈詳細は次頁以降参照〉

- ①事前に用意あるいは申合わせていた「安全の目印」を住民は所定の場所に掲げる
- ②目印を確認する役員や班長が、目印のない世帯を実際に訪問、異状の有無を確認する
- ③上記②で異状が疑われたら直ちに救助行動や救急隊への連絡を行う
- ④確認結果を災害本部(柏市)に報告する【住宅地図への展開作業が重要】

①事前に申し合わせていた「安全の目印」を住民は
所定の場所に掲げる



プラカード
マグネット式が便利かも



タオル類

②目印を確認する役員や班長が目印のない世帯を実際に訪問し異状の有無を確認する



**非常に重要な活動です
災害の本番で初めて行うことは
決して容易ではないので訓練での実践
をお願いします**

- ③訪問結果で異状があればただちに救助行動・救急隊への連絡を行う（訓練時は「不在」・「応答なし」の世帯を所定の相手先に報告する）



**災害時は電話・電子メールは
通信回線がパンクし
利用し難くくなります
これ以外の手段を各団体に
事前に用意しましょう**

風早北部地域内の簡易無線機（トランシーバー）の配備状況

R05.05時点の風早北部地域ふるさと協議会調べによる

大井区新舟戸町会（10組織中9組織）

同 井堀内町会

同 追花町会

同 柏東パークホームズ管理組合

同 中郷町会

同 中の橋町会

同 沼南エリカマンション管理組合

同 舟戸町会

同 緑台町会

大島田区

塚崎区

塚崎二丁目自治会

塚崎三丁目自治会

大津ヶ丘一丁目町会

大津ヶ丘二丁目町会

大津ヶ丘三丁目町会

大津ヶ丘四丁目町会

サンパワー区管理組合

大津ヶ丘第三住宅管理組合

大津ヶ丘第五住宅管理組合

グランシテイ大津ヶ丘団地管理組合

プロムナード大津ヶ丘団地管理組合

塚崎パークヴィラ自治会

リバティヒル柏自治会

手賀の杜自治会

柏市沼南近隣センター「地区災害対策本部」

トランシーバ未配備団体（7団体）

箕輪区

五條谷区

大井区大木戸町会（防災活動が休眠状態の団体）

大津ヶ丘第一住宅管理組合

大津ヶ丘第二住宅管理組合（未加入団体）

大津ヶ丘第四住宅管理組合

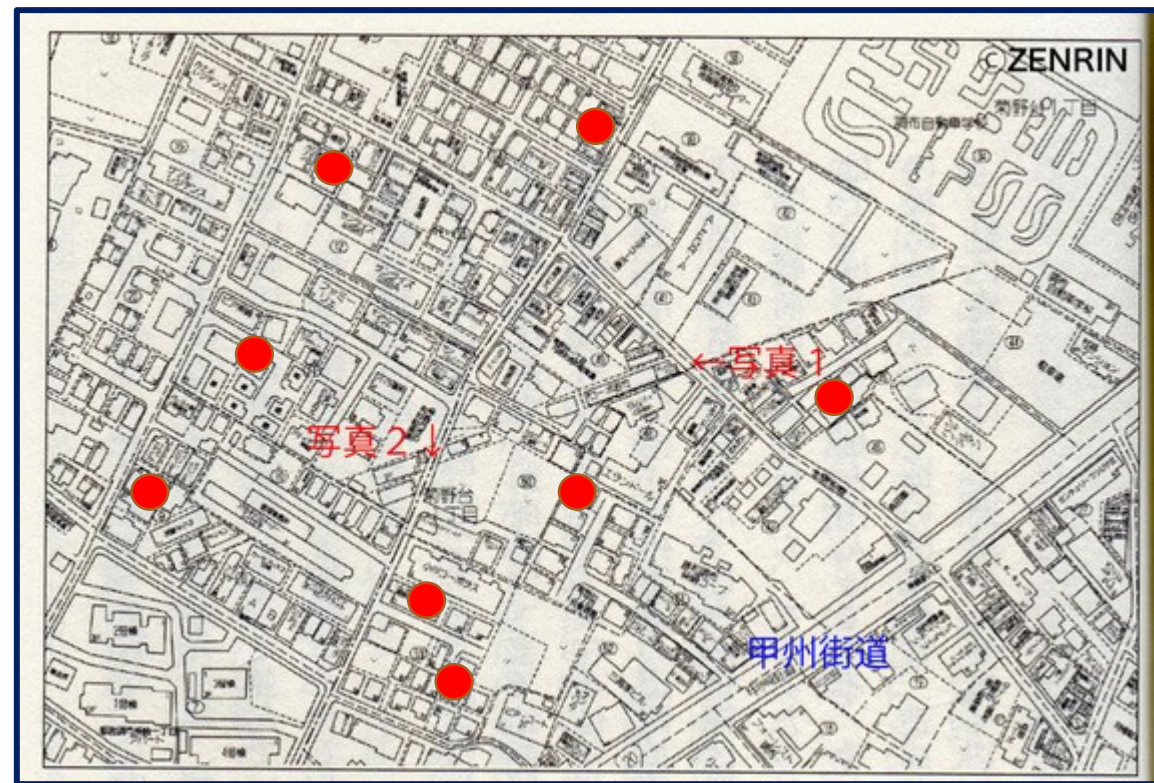
大津ヶ丘商店街（但し非居住地）

👉未整備団体の解消を！ふる協から無償貸出機材有

**右記の地区では
発災時に連絡遅
れで相当数の犠
牲者が発生する
ことが危惧され
ます**



④確認結果を災害本部に報告する 【未確認世帯を住宅地図への展開作業】



● 不在・応答ナシ世帯

⑤災害本番での未確認世帯への対応



自組織で救助活動を実施



直ちに救急救助を要請

第一部のまとめ

今期の目標として・・・

- ✓住民全戸への「シェイクアウト訓練」実施の呼び掛け（災害時に怪我をしないために）
- ✓安否確認訓練では安全目印無しの世界訪問確認（犠牲者を地域か出さないために）
- ✓災害時は電話が使えない→代替連絡手段の確保
- ✓最寄りの避難場所への住民移動訓練の実施（より多くの住民参加を目指しましょう）
- ✓総じて地域住民の防災意識の高揚と地域活動への参加の促進（組織化衰退の歯止め）

災害避難行動学

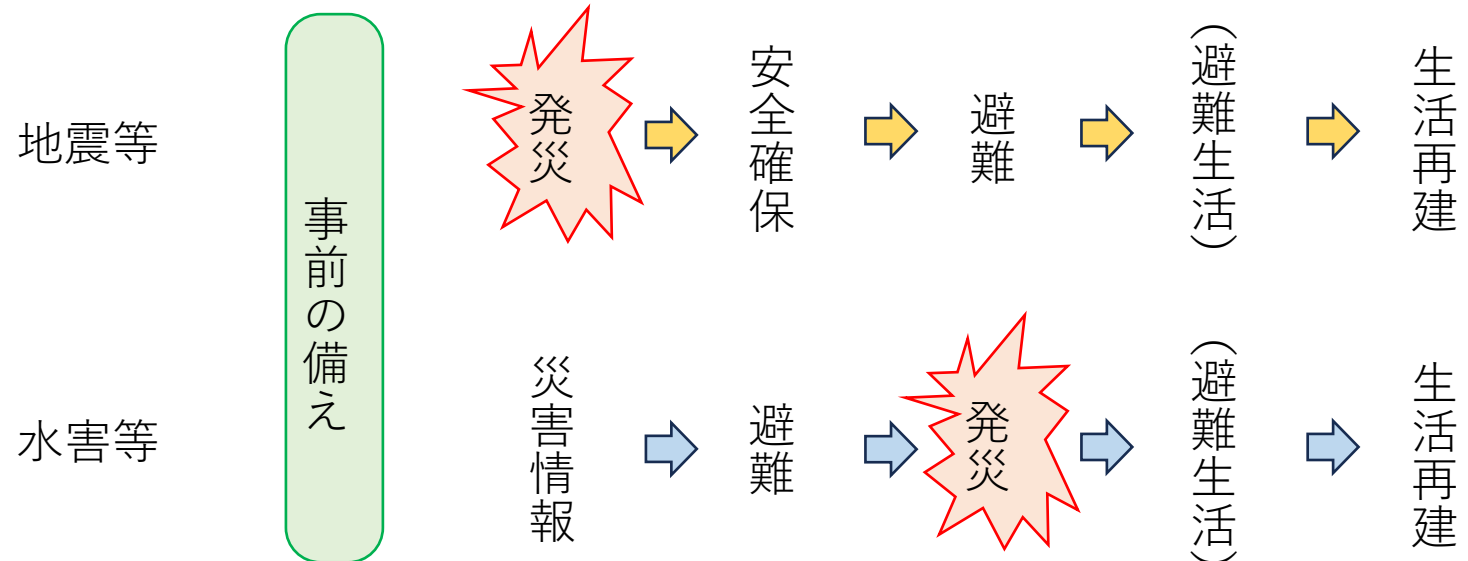
2023.6.24

柏市防災研究会

松清智洋

本日のお題

- 事前に備えておくべきモノや家族での申し合わせ
- 大規模災害発生時の行動（自宅内・外出中・近所活動）
- 避難行動として移動時に取るべき内容
- 避難所への到着時に地域団体でとるべき内容
- 避難所生活行動（避難所運営をどうするか）



台風2号の接近と前線通過に伴う大雨（令和5年6月2日～3日） の被害状況等について（令和5年6月6日柏市発表）

被害状況	人的被害	1件（倒木によるけが）
	建物被害	10件 住家被害 3件（一部損壊、床下浸水） 非住家被害 7件（一部損壊、床上浸水等）
	その他	133件 道路・橋梁被害 82件 のり面損壊 2件 その他 49件
警報等	6月2日 16時08分 16時44分 22時00分 6月3日 00時15分 00時40分 01時01分 01時19分 02時20分 07時52分 11時30分 13時54分	大雨警報発表、柏市警戒第一配備体制 洪水警報発表 避難所開設（土砂災害警戒区域及び大堀川周辺 23ヶ所） 土砂災害警戒情報発表 災害対策本部設置 避難指示発令（田中地域土砂災害警戒区域周辺）（14世帯、34人） 避難指示発令（市内全域土砂災害警戒区域等周辺）（536世帯、1231人） 避難指示発令（手賀沼・大堀川周辺）（1869世帯、3999人） 洪水警報解除 土砂災害警戒解除 大雨警報解除、避難所閉鎖（避難者2名）、災害対策本部解散

避難情報と居住者等がとるべき行動等

避難情報等	居住者等がとるべき行動等
<p>【警戒レベル5】 緊急安全確保 (市町村長が発令)</p>	<p>●発令される状況：災害発生又は切迫（必ず発令される情報ではない） ●居住者等がとるべき行動：命の危険 直ちに安全確保！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立退き避難することがかえって危険である場合、緊急安全確保する。 ただし、災害発生・切迫の状況で、本行動を安全にとることができるとは限らず、また本行動をとったとしても身の安全を確保できるとは限らない。
<p>【警戒レベル4】 避難指示 (市町村長が発令)</p>	<p>●発令される状況：災害のおそれ高い ●居住者等がとるべき行動：危険な場所から全員避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険な場所から全員避難（立退き避難又は屋内安全確保）する。
<p>【警戒レベル3】 高齢者等避難 (市町村長が発令)</p>	<p>●発令される状況：災害のおそれあり ●居住者等がとるべき行動：危険な場所から高齢者等は避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等[※]は危険な場所から避難（立退き避難又は屋内安全確保）する。 ※避難を完了させるのに時間を要する在宅又は施設利用者の高齢者及び障害のある人等、及びその人の避難を支援する者 ・高齢者等以外の人にも必要に応じ、出勤等の外出を控えるなど普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングである。 例えば、地域の状況に応じ、早めの避難が望ましい場所の居住者等は、このタイミングで自主的に避難することが望ましい。
<p>【警戒レベル2】 大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁が発表)</p>	<p>●発表される状況：気象状況悪化 ●居住者等がとるべき行動：自らの避難行動を確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップ等により自宅・施設等の災害リスク、避難場所や避難経路、避難のタイミング等を再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認・注意するなど、避難に備え自らの避難行動を確認。
<p>【警戒レベル1】 早期注意情報 (気象庁が発表)</p>	<p>●発表される状況：今後気象状況悪化のおそれ ●居住者等がとるべき行動：災害への心構えを高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災気象情報等の最新情報に注意する等、災害への心構えを高める。

避難行動の分類（立退き避難、屋内安全確保、緊急安全確保）

<p>立退き避難</p>	<p>災害リスクのある区域等の居住者等が、自宅・施設等においては命が脅かされるおそれがあることからその場を離れ、対象とする災害から安全な場所に移動すること ※リードタイムを確保できる場合にとるべき避難行動</p> <p>避難先例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定緊急避難所 ・ 安全な親戚・知人宅、ホテル・旅館等の自主的な避難先
<p>屋内安全確保</p>	<p>災害リスクのある区域等に存する自宅・施設等においても上階への移動や高層階に留まること等により、計画的に身の安全を確保することが可能な場合がある。この行動が「屋内安全確保」であり、居住者等がハザードマップ等を確認し自らの判断でとる行動 ※リードタイムを確保できる場合に（居住者等の自らの確認・判断で）とり得る避難行動</p> <p>避難先例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅・施設等の浸水しない上階への移動（垂直避難） ・ 自宅・施設等の浸水しない上層階に留まる（待避）
<p>緊急安全確保</p>	<p>「立退き避難」を行う必要がある居住者等が、適切なタイミングで避難をしなかった又は急激に災害が切迫する等して避難することができなかつた等により避難し遅れた際に、立退き避難から行動を変容し、命の危険から身の安全を可能な限り確保するため、その時点でいる場所よりも相対的に安全である場所へ直ちに移動等すること ※リードタイムを確保できない場合にとらざるを得ない避難行動</p> <p>避難先例</p> <ul style="list-style-type: none"> ※本行動をとったとしても身の安全を確保できるとは限らない ・ 洪水等、高潮及び津波のリスクがある区域等においては、自宅・施設等の少しでも浸水しにくい高い場所に緊急的に移動したり、近隣の相対的に高く堅牢な建物等に緊急的に移動する ・ 土砂災害のリスクがある区域等においては、自宅・施設等の崖から少しでも離れた部屋で待避したり、近隣の堅牢な建物に緊急的に移動する

屋内安全確保を行う上での条件

自宅・施設等自体は浸水するおそれがあるため、「屋内安全確保」を行うためには少なくとも以下の条件が満たされている必要がある。

- (1) 自宅・施設等が家屋倒壊等氾濫想定区域※1に存していないこと
- (2) 自宅・施設等に浸水しない居室があること
- (3) 自宅・施設等が一定期間浸水することにより生じる可能性がある支障※2を許容できること

※1 家屋の倒壊・流失をもたらすような堤防決壊に伴う激しい氾濫流や河岸侵食が発生することが想定される区域

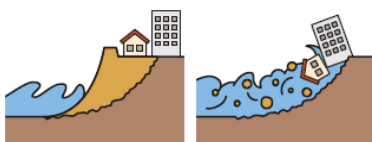
※2 支障の例：水、食糧、薬等の確保が困難になるおそれ電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれ

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない

(入っていると…)

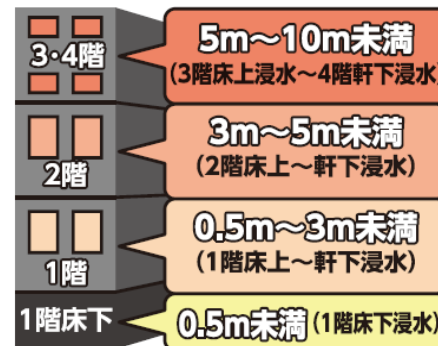


流速が速いため、
木造家屋は倒壊する
おそれがあります



地面が削られ家屋は
建物ごと崩落する
おそれがあります

② 浸水深より居室は高い



③ 水がひくまで我慢でき、 水・食糧などの備えが十分

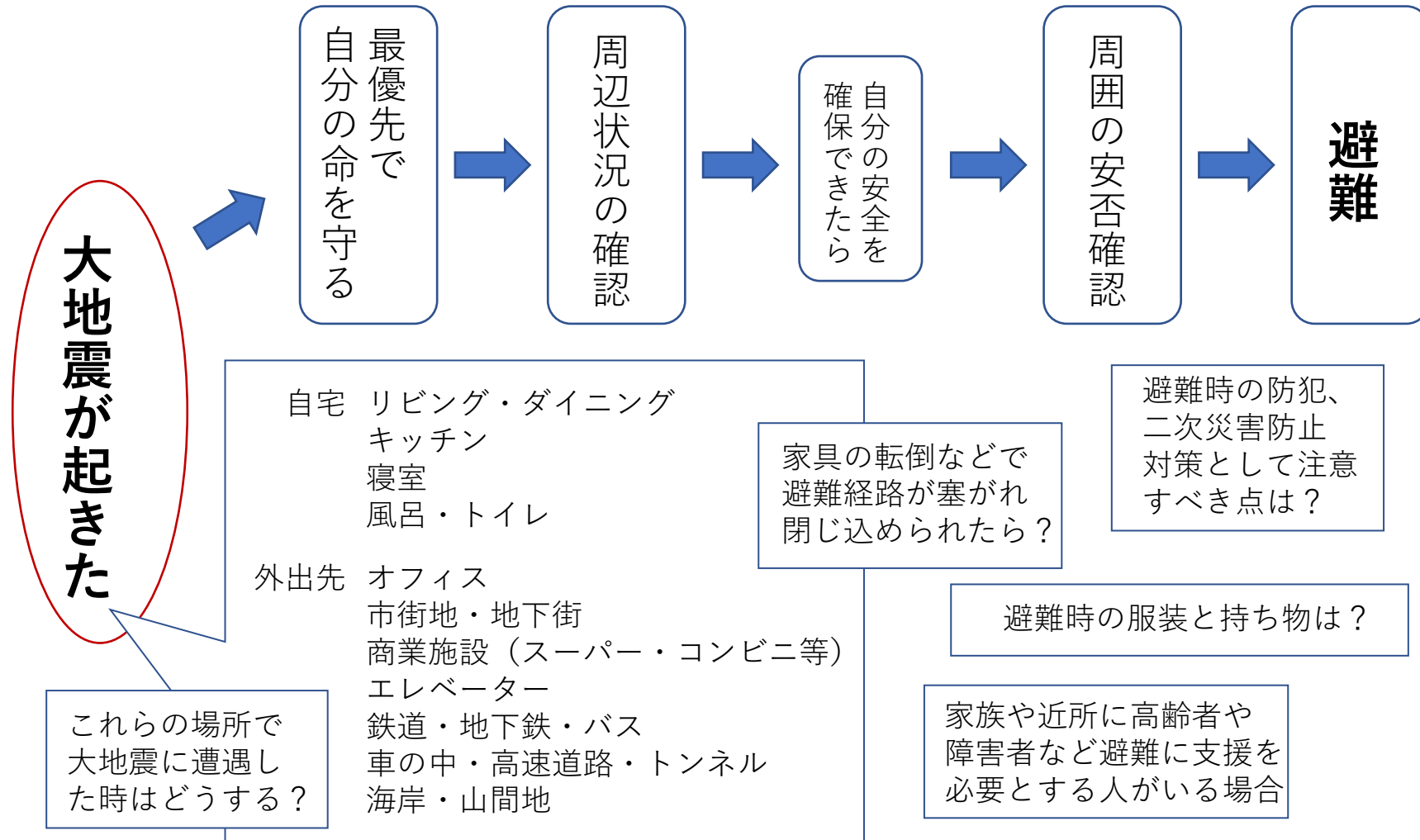
(十分じゃないと…)

水、食糧、薬等の確保が困難になる
ほか、電気、ガス、水道、トイレ等の
使用ができなくなるおそれがあります

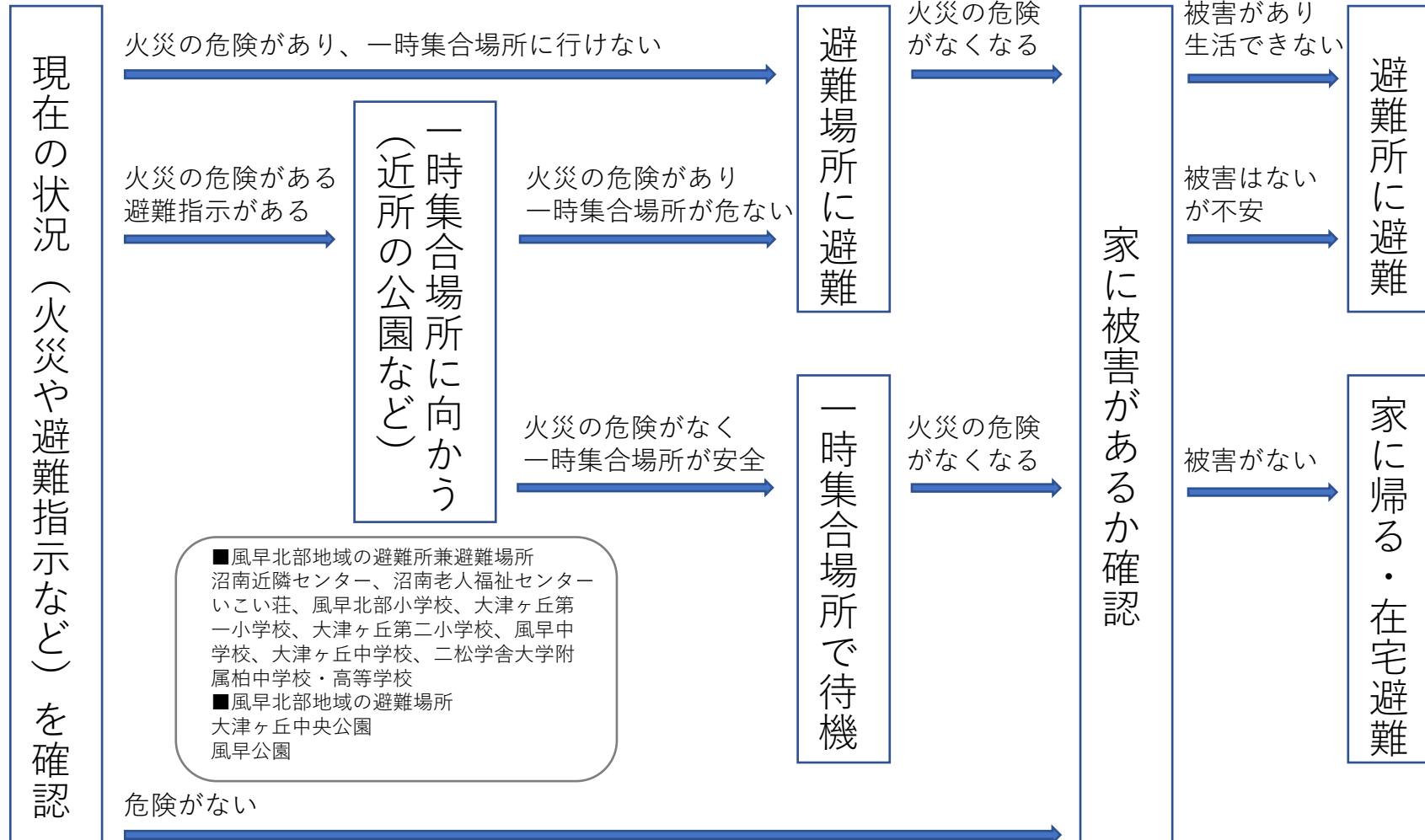


※①家屋倒壊等氾濫想定区域や③水がひくまでの時間(浸水継続時間)はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの市町村へお問い合わせください。

地震が起きたら



地震が起きたら（避難の流れ 2段階避難の場合）



地震が起きたら（3分・3時間・3日間）

3分

自分の身の安全を最優先で確保すること



3時間

家族や隣近所の安否を確認
少しでも早く安全な場所に避難する



3日間

救援活動が本格化するまでにかかる時間
地域の人たちで助け合って生きていくことが必要になる

避難時持ち出し品の考え方

身につける道具

雨具、ヘッドライト、手袋、マスク、ヘルメット、靴、レインコートなど

情報収集と安全確認

携帯ラジオ、メモ帳・筆記用具（忘れがち）

応急手当・衛生管理

軽微なケガでは医療機関をあてにできなくなる

防寒対策

体温低下は死につながる。雨具、替え下着・アルミブランケット・カイロ等

水と食料

水と食料は重量がかさむため、持ち出し用袋には最低限。

避難時持ち出し品例

1	懐中電灯（ヘッドランプ）	11	タオル
2	携帯ラジオ	12	トイレットペーパー
3	予備の電池、充電池	13	ウエットティッシュ
4	使い捨てカイロ	14	財布に小銭
5	氏名・連絡先・血液型・通帳や免許証	15	薬、マスク
6	水（500ml 1～2本）	16	手袋、軍手
7	食料品	17	メモ帳、筆記用具
8	紙皿、紙コップ	18	多機能ナイフ、はさみ、カッター
9	ポリエチレン袋（大・小）	19	ウエストポーチ
10	着替え用下着	20	アルミブランケット

避難時持ち出し品例 その他

保険証のコピー
家族やペットの写真
布製のガムテープと油性ペン
食品包装用ラップ・アルミホイル
カセットコンロ・ボンベ

子ども用避難リュックの中身

子どもの用の下着
おもちゃ（子ども用の時間つぶしグッズ）
子ども用の身元確認入れ
子ども用レジャーシート（ゲームプリントされたものなど）

ペット

キャリーバッグ、フード、簡易トイレ、ハーネス・リード

多様化する避難形態と避難生活

災害発生

自宅が倒壊・倒壊はしていないが当分住めない・余震が怖い
移動できない・避難所では生活できない

指定避難所

(学校・近隣センター等)

指定外避難所

(集会所・事業所等)

自宅

(在宅避難)

親族・知人宅

(分散避難)

災害発生直後～2、3日

多少の食料備蓄があっても
すぐに尽きる。持ち寄る

互いに水や食料を持ち寄る

備蓄した水や食料、あるもので過ごす

災害発生してから2、3日以降

プライバシー無し

周囲への気遣い

不衛生

避難所を出たら支援が減る？

食料・生活物資が手に入りづらい

情報が得にくい

避難所にもらいに行っても断られる？

公的支援が後回しになる？

公的な食料・生活物資の支援、被災者支援関連情報

在宅避難について

- 在宅避難の前提は「建物が倒壊しないこと」
- 家具の転倒防止策等はしっかりすること
- 電気、ガス、上下水道が使えない前提で備える



災害用トイレ処理セットの例

在宅避難に必要なもの

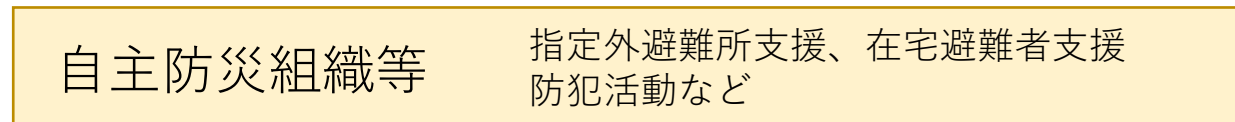
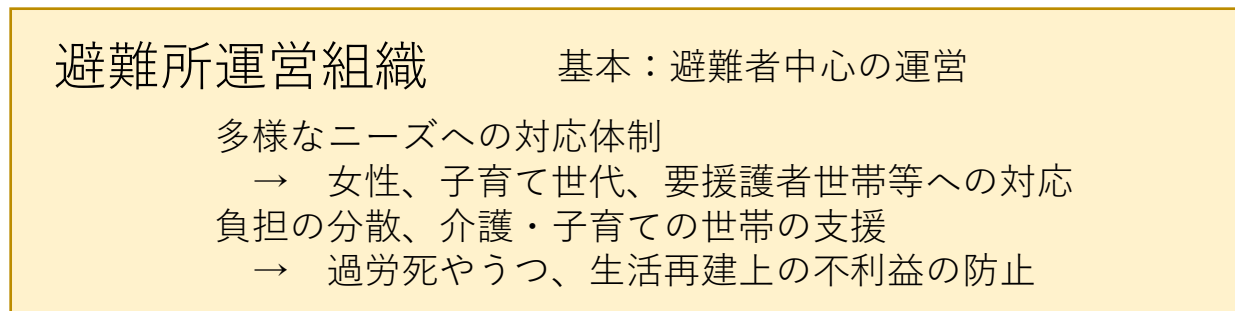
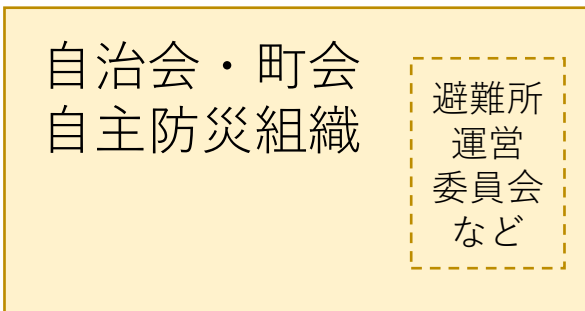
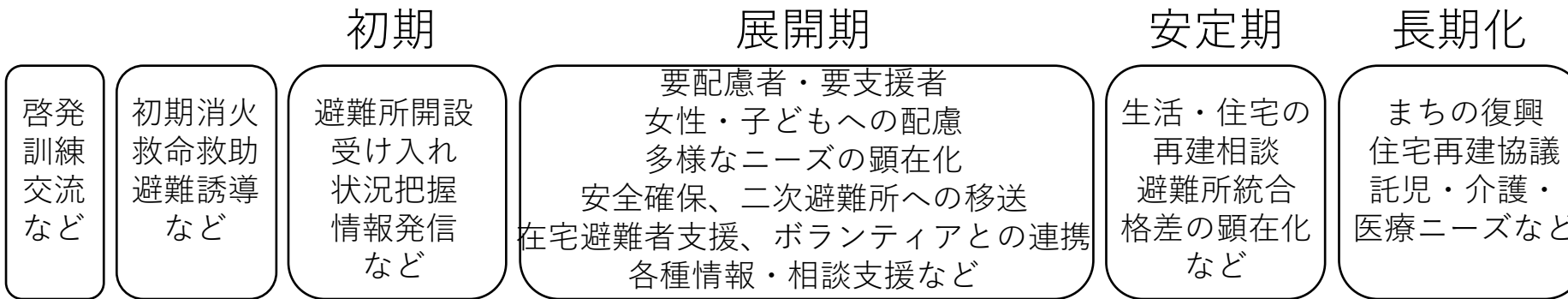
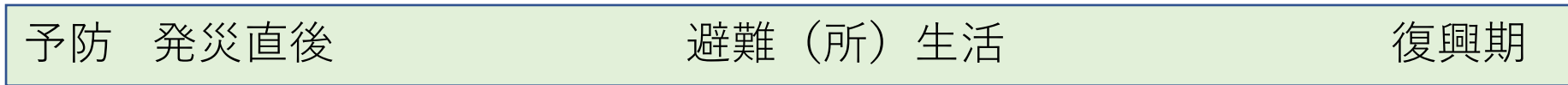
水（1人1日3リットル）、食料、簡易トイレ、カセットコンロ、ランタン等照明、ブルーシート、軍手、ゴム手袋、丈夫なゴミ袋（ガラ袋）、ガムテープ、その他（避難時持ち出し品と同じ）
（自家発電機、バッテリー）



建築基準法と住宅の耐震性能

1950年 旧建築基準 耐震性はほとんどない	 強	1950年5月 建築基準法施行 ・建物を作る時に守るべき最低限の基準 ・1970年一部改正	1952年 十勝沖地震 1964年 新潟地震 1978年 宮城県沖地震
1981年 新建築基準の住宅 現行基準に沿った耐震対策が求められる		1981年6月 建築基準法施行令改正 耐震基準を設定 ・鉄筋コンクリート基礎の義務付け ・耐力壁の仕様変更 ・耐震基準数値の見直し ・2階、3階建て家屋の壁量の見直し	1983年 日本海中部地震 1993年 北海道南西沖地震 1994年 北海道東方沖地震 1995年 兵庫県南部地震 (阪神・淡路大震災)
2000年 現行基準の住宅 熊本地震のような想定外の災害への対策が必要		2000年6月 建築基準法施行令改正 木造住宅において耐震基準を設定 ・地耐力に合わせた基礎の仕様見直し ・柱頭、柱脚、筋交い接合部の接合方法の規定 ・耐力壁のバランス配置	2000年 鳥取県西部地震 2001年 芸予地震 2003年 十勝沖地震 2004年 新潟県中越地震 2005年 福岡県西方沖地震 2007年 新潟県中越沖地震 2008年 岩手・宮城内陸地震 2008年 岩手県沿岸北部地震 2011年 東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災) 2016年 熊本地震

時間と共に変容する避難所



(必要に応じて)
復興協議会等

避難所運営の基本的な考え方

避難所への避難が必要な震災等災害発生時は、市や学校職員も被災している前提で、住民が主体的に避難所を開設、運営できる体制構築を目指す。

「在宅避難者」への対応 ← 在宅避難者の把握と支援の方法

「平時にできないことは、災害時にできない」

← 訓練と実行可能なマニュアルが必要

しかし、求められるすべてを一度にクリアすることは難しい。

→ 優先順位の高い順に取り組む心のゆとりも必要

→ 平時の災害対策訓練の目標として段階的に取り組む

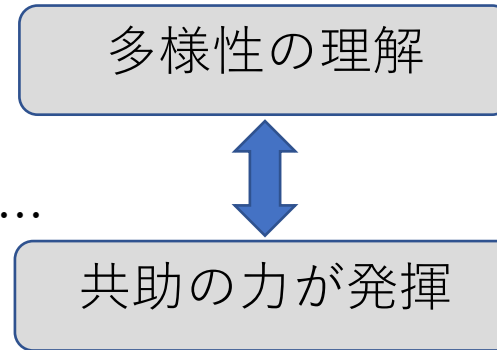
※課題を課題として認識しているだけでも違う

※課題をより多くの住民が共有認識として持つことが重要

避難所運営の基本的な考え方

共助の基礎 = 人々の多様性への理解

高齢者、子ども、障害者、傷病者、外国人
性別はすべての属性に関わる
性自認、年齢、国籍や母語の違い、家族構成、就労状況…



男女の両方がリーダー・役員になる

方針決定に男性・女性の両方が参加する
男女の役割を固定しない

さまざまな団体と連携する

地域の老人会、こども会、市民活動団体などと普段から連携、災害時に助け合える
体制づくりをする

隣近所の助け合いの仕組みづくり

近所づきあいで顔を見知って、助け合える関係づくりをする

多様な個人の意見を運営に反映

高齢者、子ども、若者、障害者、外国人など、多様な個人の意見を聞き、組織の
運営に反映させる

講習内容の骨子（まとめ）…本頁以下は風早北部ふるさと協議会が作成しました

- 今年6月2~3日の大雨による柏市の被害状況、特に風早北部地域は手賀沼界隈の数か所で水位が上がり、周辺地域が水没（一時通行止め箇所発生）、地域住民に避難指示（警戒レベル4）が発せられた。←受講者でそれを認知していた方は半分以下（三分の一程度）であった。
- 避難所開設は柏市メール配信のみである中、メール登録に躊躇される方に、「ヤフー防災アプリ」の利用を推奨（登録時に住まいのある柏市に設定することで、自動的に警戒通報が入手できる）。その登録手順を示したチラシを配布した。その後希望の団体にも住民配布・回覧部数を追加提供。
- 各警戒レベル（1~5段階）での各自がとるべき行動、避難行動の内容のおさらい。
- 在宅避難の際の条件、それが満たされない場合直ちに避難行動に移行。避難所避難住民と在宅避難住民が混在する状況での避難所運営をどうするかは、避難所運営者として検討しておくべき課題。
- 地震発生後のとるべき行動。身の安全確保が第一、その後に避難行動。直接避難所に向かわず、一時避難所を経由した避難路も考えておく（必ずしも避難所直行が安全とは限らない）。
- 地震発生後の「3分、3時間、3日間」=身の安全確保、家族の安否確認と安全な場所への避難、互助に向けた準備=備蓄品（他所からの支援や公的支援は決してあてにしないこと）
- 避難時の持出品の点検を日頃から怠らないこと。特に他で入手困難な物品（薬やメガネ・杖・入れ歯など）を忘れない（避難所生活の際に大きな支障が生じやすい）
- 避難所（生活）は時間と共に変容する。避難生活の長期化の中では、避難所運営母体の組織化が必要。避難住民からの多様なニーズにどう応えるか（どう優先順位をつけるか）。弱者の子供・高齢者、ペット同伴は柏市では形式的対応のみ、事実上ペットを連れての避難生活は明らかに困難。
- 男女の避難所運営リーダー、他の外部団体との関わり、多様な個々人の意見をどう処理するか。地域団体が機能していない場合、ご近所どうしの繋がりでの仕組み作りも有効（近助の力を大切に）

講習会受講者アンケート集計結果

受講後の感想や意見	
参考になった。今期の訓練実践に生かした	24
参考になったが、実践にはつながらない	
仕事や私用で忙しい	0
近所で訓練を実施していない	2
訓練実施に興味がない・不要と考	0
その他（自由意見）	2
・通信手段があてにならないようですが、119番への通報は？・柏市	
参考にならなかった	
自分が行動できる内容で無かった	0
別の内容を期待していた（自由意	0
・特になし	

その他の記述（枠外に記載内容含む）

- ・しばらく訓練がなく、忘れていた事が多く、参考になった
- ・家族、町会で県の防災センターへのツアーを企画すると防災意識を掘り下げることができます
- ・地震はある日突然やってくる。実際このような避難行動ができるか不安ではある。実際に起きた時、迅速に行動できるように、他人事と思わず訓練、日頃の心掛けをしたい

今期の講習会実施の時期	
この時期でよい	20
別の時期がよい	
具体的な時期（自由意見）	0
・特になし	
時期にこだわらない	6
その他の記述（枠外） ・先日の水害（6月2日？）のように、話題になった後など	

次回（次期）も本趣旨の講座を受講したいか	
受講したい	20
未回答	1
受講しない	4
・防災担当役員と情報共有すれば良いと思う。ホームページを拝見し、継続する予定	

その他の記載（裏面に記載あり）

1. 災害行動学の説明で、パワーポインターを使用しているが、画面が小さく見えにくい。大画面で説明して欲しかった。＊参加人数が少なかったからか？
2. 防災訓練の方法は参考になった。自治会の防災訓練の際、名簿、地図（住宅）を活用し、安否確認したい。さっそく自宅に帰り、名簿、地図等を用意したい。
3. 災害の実例につきもっと聞きたかった。

質疑応答 (👉以下が回答概要)

✓Kネット登録者の訓練時のサポートは？

👉手賀の杜地区では9年前の避難訓練実施開始当初は登録者世帯了承のもとで介助住民を事前に配置していた。避難訓練自体が中断している現在、その体制や対応は同自治会でもできていない。

✓発災時の学校は避難者と児童受入れ保護者住民で人流の混乱が生じないか？

👉避難場所が校庭や体育館等に限定されているので、それぞれの人流導線を明確に区分けすることで混乱は物理的には回避可能である。

質疑応答の続き (👉以下が回答概要)

- ✓ 避難所マニュアル見直しに際し、参考になる雛形はないか？
 - 👉 学校管理者向けマニュアルは存在するが避難する一般住民向けは柏市ではない。実際の避難訓練で現行のマニュアルの有効性を先ずは評価しては如何か。
- ✓ 当地域は震度6強以上を目安に避難行動を住民に呼びかけることとしている。深夜や早朝など、学校に誰もいない時間で、かつ停電も想定（二次災害の危険性）される中で、地域団体に避難誘導は果たして必要か？
 - 👉 在宅避難が難しい場合は必要と考える。停電を想定した避難訓練なども事前に考えておくことも大切である。

受講された風早北部住民の皆さんへ
是非、今秋予定の
地域一斉防災訓練にもご参加を
お待ちしております
今回の会場ご提供の
柏市ひまわりプラザのご協力に
感謝申しあげます

風早北部ふるさと協議会
防犯防災部一同